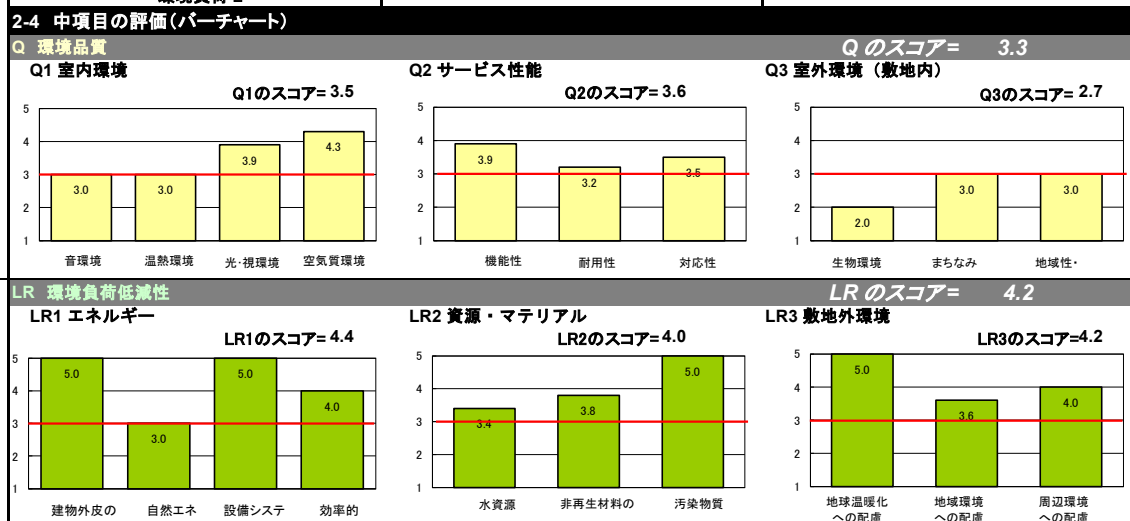
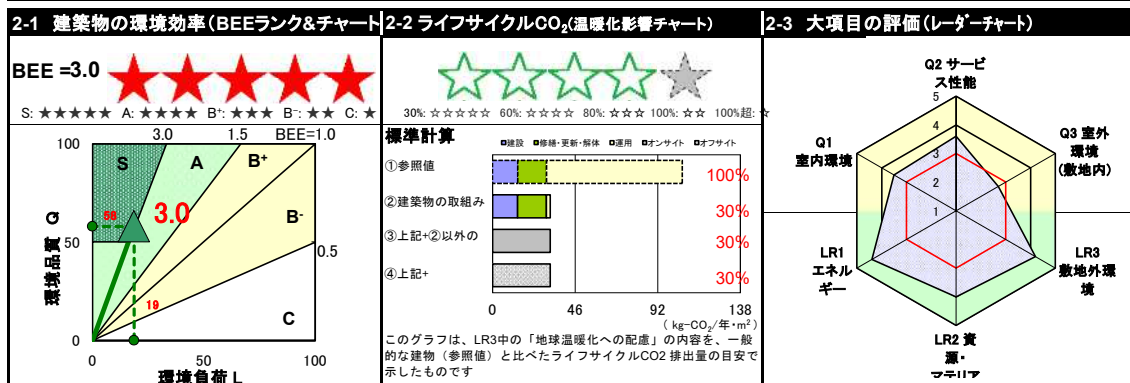


CASBEE[®]あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	愛三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟	階数		
建設地	愛知県豊田市西広瀬町小麦生635-30,635-31	構造		
用途地域	工業専用地域	平均居住人員		
気候区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	事務所	評価の段階		
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日		
敷地面積	81,076 m ²	作成者		
建築面積	1,637 m ²	確認日		
延床面積	3,174 m ²	確認者		



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮 5.0 	③敷地内の緑化 2.0 	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		33.9 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用 3.5 	④地域材の活用 1.0 	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮
②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
愛三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階											
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体		
		重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質											3.3		
Q1 室内環境							0.40			-	3.5		
1 音環境					0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0		
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.40		3.0	-			
1.2 遮音					0.4	3.0	0.40		-	-			
1 開口部遮音性能					-	3.0	0.60		3.0	-			
2 界壁遮音性能					-	3.0	0.40		3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	3.0	-		3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	3.0	-		3.0	-			
1.3 吸音					-	3.0	0.20		3.0	-			
2 温熱環境					0.3	3.0	0.35	-	-	-	3.0		
2.1 室温制御					0.5	3.0	0.50	-	-	-			
1 室温					3.0	3.0	0.38		3.0	-			
2 外皮性能					3.0	3.0	0.25		3.0	-			
3 ゾーン別制御性					3.0	3.0	0.38		-	-			
2.2 湿度制御					3.0	3.0	0.20		3.0	-			
2.3 空調方式					3.0	3.0	0.30		3.0	-			
3 光・視環境					0.2	3.9	0.25	-	-	-	3.9		
3.1 昼光利用					0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 昼光率			昼効率1.536%		3.0	3.0	0.60		3.0	-			
2 方位別開口					-	-	-		3.0	-			
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40		3.0	-			
3.2 グレア対策					0.3	4.0	0.30	-	-	-			
1 昼光制御			ブレインド設置によりグレア抑制		5.0	4.0	1.00		3.0	-			
3.3 照度			事務室T.A採用、全館照明300lx以上		3.0	4.0	0.15		3.0	-			
3.4 照明制御			事務室・食堂昼光制御、トイレ・廊下人感制御		3.0	5.0	0.25		3.0	-			
4 空気質環境					0.2	4.3	0.25	-	-	-	4.3		
4.1 発生源対策					0.5	5.0	0.50	-	-	-			
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆を積極的に採用		3.0	5.0	1.00		3.0	-			
4.2 換気					0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 換気量					3.0	3.0	0.33		3.0	-			
2 自然換気性能					3.0	3.0	0.33		3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.33		3.0	-			
4.3 運用管理					0.2	4.5	0.20	-	-	-			
1 CO ₂ の監視			豊田工場にて月間のCO2実績を測定		3.0	4.0	0.50		-	-			
2 喫煙の制御			建物内禁煙		3.0	5.0	0.50		-	-			
Q2 サービス性能						-	0.30		-	-	3.6		
1 機能性					0.4	3.9	0.40	-	-	-	3.9		
1.1 機能性・使いやすさ					0.4	3.3	0.40	-	-	-			
1 広さ・収納性					3.0	3.0	0.33		3.0	-			
2 高度情報通信設備対応			複数の通信業者の回線を引き込み、配線スペースを確保		3.0	4.0	0.33		3.0	-			
3 バリアフリー計画		独自			3.0	3.0	0.33		-	-			
1.2 心理性・快適性					0.3	4.6	0.30	-	-	-			
1 広さ感・景観 (天井高)			事務室 天井高2.7m、南面に横連窓を設置		3.0	4.0	0.33		3.0	-			
2 リフレッシュできるアメニティールームを設置、売店の設置					3.0	5.0	0.33		-	-			
3 内装計画			パースによる内装計画を実施		3.0	5.0	0.33		-	-			
1.3 維持管理					0.3	4.0	0.30	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計			防汚性の高い仕上を採用等		3.0	5.0	0.50		-	-			
2 維持管理用機能の確保					-	3.0	0.50		-	-			
2 耐用性・信頼性					0.3	3.2	0.31	-	-	-	3.2		
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80		-	-			
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20		-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	3.4	0.33	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23		-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			-	3.0	0.23		-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔			床:塩ビシートの採用(耐用年数20年)		-	5.0	0.09		-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08		-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			配管上位三種 給水:B、排水:B、給湯:C		-	5.0	0.15		-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	3.0	0.23		-	-			
2.4 信頼性					0.1	3.4	0.19	-	-	-			
1 空調・換気設備					3.0	3.0	0.20		-	-			
2 給排水・衛生設備			受水槽に蛇口設置		3.0	4.0	0.20		-	-			
3 電気設備					3.0	3.0	0.20		-	-			
4 機械・配管支持方法		②			3.0	3.0	0.20		-	-			
5 通信・情報設備			光ケーブル・メタルケーブル有		3.0	4.0	0.20		-	-			

3 対応性・更新性				0.2	3.5	0.29	-	-	-	3.5
3.1 空間のゆとり			②	0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり				5.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性				3.0	0.17			-	
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	4.0	0.22		-	-		
バックアップ設備のためのスペースを計画的に確保										
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出				独自③		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				独自④		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上				独自④		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上						3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-	-	-	4.2
LR1 エネルギー						-	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制					BPI=0.65	3.0	5.0	0.30	-	5.0
2 自然エネルギー利用						3.0	3.0	0.20	-	3.0
3 設備システムの高効率化					BEI=0.03	3.0	5.0	0.30	-	5.0
4 効率的運用						0.2	4.0	0.20	-	4.0
集合住宅以外						1.0	4.0	1.00	-	
4.1 モニタリング						3.0	4.0	0.50	-	
4.2 運用管理体制						3.0	4.0	0.50	-	
集合住宅						-	-	-	-	
4.1 モニタリング						-	3.0	-	-	
4.2 運用管理体制						-	3.0	-	-	
LR2 資源・マテリアル						-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護						0.1	3.4	0.15	-	3.4
1.1 節水						3.0	4.0	0.40	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用						0.6	3.0	0.60	-	
1 雨水利用システム導入の有無						3.0	3.0	0.67	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無						3.0	3.0	0.33	-	
2 非再生性資源の使用量削減						0.6	3.8	0.63	-	3.8
2.1 材料使用量の削減				② 独自		-	2.0	0.07	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用						-	3.0	0.24	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用						-	3.0	0.20	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用						3.0	5.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材						3.0	4.0	0.05	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み					独自	3.0	5.0	0.24	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避						0.2	5.0	0.22	-	5.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用						3.0	5.0	0.32	-	
3.2 フロン・ハロンの回避						0.6	5.0	0.68	-	
1 消火剤						-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)						-	5.0	1.00	-	
3 冷媒						3.0	-	-	-	
LR3 敷地外環境						-	0.30	-	-	4.2
1 地球温暖化への配慮				①		-	5.0	0.33	-	5.0
2 地域環境への配慮						0.3	3.6	0.33	-	3.6
2.1 大気汚染防止						-	5.0	0.25	-	
2.2 温熱環境悪化の改善						-	3.0	0.50	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制						0.2	3.7	0.25	-	
1 雨水排水負荷低減				独自		-	4.0	0.25	-	
2 汚水処理負荷抑制						-	4.0	0.25	-	
3 交通負荷抑制				独自		-	5.0	0.25	-	
4 廃棄物処理負荷抑制						-	2.0	0.25	-	
3 周辺環境への配慮						0.3	4.0	0.33	-	4.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止						0.4	5.0	0.40	-	
1 騒音				独自		-	5.0	1.00	-	
2 振動				独自		-	-	-	-	
3 悪臭						-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制						0.4	3.0	0.40	-	
1 風害の抑制						-	3.0	0.70	-	
2 砂塵の抑制						-	1.0	-	-	
3 日照障害の抑制						-	3.0	0.30	-	
3.3 光害の抑制						0.2	4.4	0.20	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策						-	5.0	0.70	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策						-	3.0	0.30	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

豊三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				5.0
LR3-1	地球温暖化への配慮	5.0	0.10	3.5
② 資源の有効活用				
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.5	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:33.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

環境設計の配慮事項

■建物名称 愛三工業株式会社 豊田工場(仮称)事務厚生棟

計画上の配慮事項	
総合	豊田工場の顔となるNearly ZEB取得を目指した事務厚生棟。
Q1 室内環境	・内装仕上にF☆☆☆☆を全面的に採用 ・建物内禁煙 ・照明制御あり
Q2 サービス性能	・事務室 天井高2.7m確保 ・リフレッシュできるアメニティールームを設置、売店の設置 ・階高=4200確保
Q3 室外環境(敷地内)	・特になし。
LR1 エネルギー	・開口部に複層ガラスの採用
LR2 資源・マテリアル	・躯体と内装仕上げの分離が容易 ・OAフロアの採用 ・F☆☆☆☆の建材使用 ・自動水栓・泡沫式水栓の採用、節水型大便器の採用
LR3 敷地外環境	・厨房機器オール電化のため、燃焼機器なし
その他	・特になし。